

## N o 12 : 全ての関係者に感謝

3月をもって香港駐在を終え、日本に帰任することとなった。最後に約3年間の活動を簡単に振り返ってみたい。

駐在員として香港の地を踏んだのは2022年5月31日、新型コロナウイルス感染症の影響による入国規制が各国に残っていた時期だった。出発を控えた羽田空港第3ターミナルは閑散としており、搭乗機の中にも乗客はほとんどいなかった。

香港到着後にPCR検査を実施し、陰性が確認できるとバスで隔離ホテルへ運ばれた。隔離期間は1週間で、その間はホテルの部屋から1歩も外に出られず、無事に隔離を終えホテルを出て、ようやく香港に来た実感が湧いてきたことを覚えている。

1年目は主に香港内での活動に注力し、卸売り・小売り・飲食・観光・教育などの主要関係者とのネットワークを構築するとともに、香港国際旅游展への出展、飲食店での県産酒プロモーションや料理教室でのテストマーケティングの実施などに取り組んだ。

2年目には香港外へも活動を広げ、栃木県内事業者のフード台北（台湾）への出展支援、日本への香港食品バイヤー<sup>しょうへい</sup>招聘などを実施した。香港内でもブックフェアやWine & Dine Festival に初出展し、銅鑼湾（コーズウェイベイ）の商業ビルに本県のポップアップストアを出店するなど、新たな事業にも積極的に挑戦した。

3年目には過去2年間の経験を踏まえて既存事業をブラッシュアップした。県産米プロモーション事業では実施店に継続して県産米を使用してもらい、香港食品バイヤー招聘では早々に成約が出るなど、成果を実感することも増えてきた。また、大型スーパーで栃木県物産フェアを実施するなど、引き続き新たな事業にも取り組んだ。

2025年度事業についても鋭意準備を進めていたが、帰任の辞令を受け後任者に後を託すこととなった。当初の予定通りとはいえ、慣れ親しんだ香港を去るのは寂しい気持ちだが、駐在期間に構築したネットワークや準備中の2025年度事業は後任者にしっかりと引き継いだので、心残りはない。

最後に、香港駐在の準備段階から帰任するまで間、お世話になった全ての方々に対して深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました



【栃木県物産フェアのPRイベントの様子  
＝8日、APITA 太古店】

（県香港事務所長 卯木啓之）